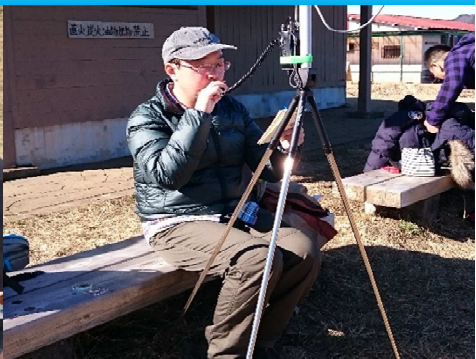




移動運用

横浜シーサイドHAMクラブ広報誌

「しぐなる」 復刻版



YSSC 流移動運用 StyleBook 2023

無線機持って海に山に! 今日から移動運用を始めよう!

Prologue 彼女は歩道橋に恋をした…（移動 style は千差万別）



とある休日、ハンディ機片手に秋葉原を散策する JP3MOS 局。無線関連のショップなどを覗きにきたのが目的のひとつなのだが、それよりも彼女が楽しみにしていることは、**歩道橋探し**である。

秋葉原周辺の歩道橋などの見通しの良い場所を探して、そこから聞こえる移動局などをコールして QSO を楽しむことにイマ夢中なのである。

駅前 Q R Vという楽しみ方があることを雑誌で知り、自分も通勤の際に利用する歩道橋の上から移動運用できるのではないかと考えたそうだ。

【右上へ】



もっと遠くの局と交信したい！ハンディ機付属のアンテナでなくロッドアンテナを購入し使用したら交信局数が増え面白くなった。彼女は、今、**歩道橋に恋**をした。



巻頭にご登場いただいた JP3MOS 局の現在の移動運用スタイルは「歩道橋からの移動運用」です。しかも通勤途上の時間があるときにバッグからハンディ機を出しスマートに運用。

このように**アマチュア無線家が 100 人**いれば、**そこには 100 通りの楽しみ方**があるのです。ひとりでもアマチュア無線は楽しめますが、それでは楽しみの 1 %

にも触れられていないと考えます。

横浜シーサイドハムクラブは、**移動運用を主軸**とし、そこに集う仲間が様々な楽しみを共有し合い興味を広げています。あなたも無線仲間を増やし、様々な楽しみ方を共有してアマチュア無線の楽しみを広げてみませんか。



Style 1 ハンディ機 1 台で始める 出かけた先で気軽に

移動運用を始めるには、無線機、電源、アンテナ、ケーブルなど多くの機材を用意し持参する必要があると思いませんか？それは大きなまちがいです。

はじめて移動運用をされる方は、**お手持ちのハンディトランシーバー 1 台を片手に**、野山に出かけてみませんか？これも立派な移動運用ですし、移動運用にチャレンジするというハードルを下げることになると思います。まずはやってみましょう。

現地が山であれば、登っている間も、呼び出しチャンネルを聞きながら歩いたりすれば、「こんな遠くの局が聞こえるのか」などの発見や楽しみがあります。

また、ハンディ機に標準装備のヘリカルアンテナでも十分楽しめますが、ぜひ、**アンテナ長のより長いロッドアンテナ**を追加購入することをオススメします。複数で山歩きた際にロッドアンテナの有無で聞き比べしてみると感度の差は明確でした。現着後の移動運用の際には、ロッドアンテナに取り替えることで、さらに多くの局、遠くの局との交信が期待でき、移動運用の**満足感が向上**しますよ。

もし、トランシーバーをこれから調達するのでしたら、APRS^{※1}にも対応したものや D-star 対応のトランシーバーが良いでしょう。APRS 対応でしたら登山の場合、位置情報を送出しながら登ることができ、帰宅後どこを歩いたのか google 地図^{※2}で確認できるといふ別の楽しみ方もあります。

※1 Automatic Packet Reporting System とは、アマチュア無線を用いた位置情報発信システム

※2 アマチュア局の位置情報を閲覧できるサイトはこちらから <https://ja.aprs.fi/>



(左)静岡県伊豆市巢雲山山頂から、ハンディ機に
ロッドアンテナで交信する JN1CD0 榎本さん

(上)静岡県駿東郡小山町金時山からハンディ機で
楽しそうに交信する JK1WQE 酒井さん

Column 1 オススメのハンディ機は？ アンテナは？



編者が勧めるトランシーバーは、YAESU **FT-5D**(左)です。なぜなら、最大出力**5w**、2バンド同時受信、ラジオ受信機能、そしてStyle1でご紹介した**APRSにも対応**していて楽しいです。D-star 対応機ならば ICOM の ID-52 や ID-50 などをお勧めします。

以前の5w出力のハンディ機は、長時間使用していると本体が熱を持ち、熱くなって手で持っていられなくなり大変でしたが、最近のトランシーバーはそういう心配ありません。また、バッテリーの持ちも長くなっていますから日帰りの移動運用なら、予備のバッテリーも不要だと思います。

次にお勧めアンテナですが、第一電波工業の**RH770**(右)と一緒に購入すべきでしょう。アンテナ長は収縮時 22.3cm、使用時は 93cm です。長いロッドアンテナならさらに遠距離の交信が期待できます。**固定用の八木アンテナやモービルホイップを持参しなくても、十分に移動運用を楽しむことができます**でしょう。



最近のハンディ機はコネクタ部が SMA 端子ですが、長いロッドアンテナですとコネクタ部に負荷がかかり、不安定さが気になります。RH770 と同種で SMA 端子用の SRH770 というものも市販されていますが、編者は本体の SMA コネクタから一旦変換コネクタで **BNC 端子に変換**して、RH770 を接続しています。**こちらの方が安定する**と思います。

他にも、使用していて実用的なものとしては、コメットの **SH-55** もおすすめできるアンテナだと思います。

■ 屋外での運用のマナーについて(日本アマチュア無線連盟ホームページから引用)

公園内や駐車場などで、アンテナを仮設して移動運用を楽しんでいるケースが増えています。展望台などの施設や山頂付近の駐車場などは、一般の利用者も多く訪れますので、一般の利用者に迷惑や不快感を与えることがないように注意しましょう。

○ 公園内、山頂の展望地にアンテナを仮設する時は、**案内板等の標識を利用**したり、**破損**させたりすることのないように、また、**風致景観を損なわない**ように、できるかぎり**目立たないところに設置**しましょう。

○ 山頂や駐車場は、一般の利用者もいますから、妨げにならない、また、長時間占拠することにならないよう、**周辺の環境に十分に配慮**して運用しましょう。

Style2 軽装備を追求！HF・VHF運用も楽しもう

ICOM から発売されているポータブルトランシーバー**IC-705** の登場は、私たちの移動運用の幅を広げてくれました。類似のリグとして YAESU FT-818ND もありますが、最近はタッチパネル式の IC-705 を好んで使っています。コンパクトで軽量ながら、オールバンド、オールモードに対応しており、軽装備で本格的な移動運用が楽しめます。

IC-705 専用のアンテナチューナー**AH-705** は乾電池でも駆動します。編者はこれに加えてモバイルバッテリー、コンパクトアンテナを用意し、徒歩や自転車で近所に出かけ、手軽に HF・VHF 運用を楽しんでいます。具体的にご紹介しましょう。



暖かい春の日、自宅から自転車で横浜市磯子区の円海山に出かけました。持参した荷物は写真(左)のとおり、小さなリュックサック1つ。これで HF 運用を楽しもうとしています。もちろん背負ってもそんなに辛い重さです。今回は自転車でしたが、別の機会に低山ハイキングしましたが、十分でした。

さて、荷解きしてみましょう。荷解きした様子が写真(下)です。たったこれだけです。

左側から順にご紹介しましょう。コメットから発売されているアンテナ **HFJ-350M** のうち必要な部分のみを持参。そして伸縮式ポールで既に廃版となっていますが、コメット **CP-20L** (全長 2m) です。旅のお供のハンディ機 YAESU **FT-3D**、その前にあるのは CQ オーム社のバッテリー **OHM-PD65W** (65W19200mAh)、その右にアンテナチューナー **ICOM AH-705**、そして IC-705、



本体の前には本体を安定させるためのカメラ用ミニ三脚、そしてケーブル類(5D-2V5m、IC-705 と AH-705 を接続するケーブル)やカウンターポイズ。これに飲食物もリュックに入ってお手軽です。

Column 2 こんな装備でもHFは十分楽しめる！



Style2 でご紹介した装備での運用の様子をもう少し詳しくご紹介しましょう。

写真(左)のとおり、持参した HFJ-350M をポールに接続して伸ばします。今回は**自転車(Honbike)のカゴにポールをはめ込んで特にステー等は不要**でした。そしてアンテナにカウンターポイズを接続し地面に展開します。

カウンターポイズは、CQ オームで販売している **HD-GND705** という阪奈電子製作で IC-705 専用のツマミナット付き。全長 8m でハイバンド用補助アース線 2.5m が付属されているものを使用しました。

AH-705 がありますので、7MHz から 50MHz までのどのバンドもチューニングは十分取れました。

運用風景は写真(下)のとおりです。IC-705 はカメラ用ミニ三脚に固定し使いやすくしました。マイクやパドル、イヤホンを接続して運用開始。



モバイルバッテリーを使用しているので 10w 出すことができます。

この日は 7MHz, 10MHz などを聞いてみました。SSB でも十分楽しめましたが、パイルに負けるなどが続いたため、CW 中心に運用してみました。

2時間ほど、あちこちのバンドをいったりきたりしましたが、**アンテナのチューニングも AH-705 なら IC-705 のタッチパネルをワンタッチするだけで同調するので全くストレスなく効率よく運用することができました。**

HF で出力は 10W、決して FB ではないアンテナですから、大きな成果は気にせずに、1時間足らずで全国各地の 10 局との交信とのんびり。しかし、リュック 1 つと自転車でやって来た移動運用ですからこれはこれで大満足です。

Style3 登山を楽しみながら山頂でオンエアしてみよう

少し移動運用に慣れてきたら、次は登山を兼ねた移動運用にチャレンジしてみましょう。単独の登山ですと荷物を担ぎ上げるのも大変ですが、**複数人**(編者の場合は横浜シーサイドHAMクラブメンバーと予定を合わせて移動しています)**での登山**でしたら、無線機、アンテナ、バッテリーなどを手分けして担ぎ上げることができ、**それなりの設備で運用が楽しむことができる**でしょう。そして、この運用の何よりの楽しみは山頂からの雄大な景色を楽しみながら運用ができる**爽快感**でしょう。

2022 年 2 月 27 日には、静岡県駿東郡小山町の金時山にメンバー 3 名で登りました。常置場所で使用している **FT-991AM** と 144MHz の 5 エレ八木を持ち込み、富士山反射ではないですが裾野に向かって電波を出しました。バッテリーを含め担ぎ上げた機材の重さは相当なものでしたが JJ1RRA 加藤さんは一人で現場までもってきていただきました。

山頂での移動運用で気を付けなければならないことは、他のハイカーの邪魔になるようなテーブルを**広く占有して行う移動運用**や、眺めが良い方向に大きなアンテナを展開するなど、一般のハイカーに対する**迷惑行為**は慎むべきです。アマチュア無線家が長く山頂で移動運用を楽しんでいくためにも基本的なマナーは守りたいものです。

私たちのこれまでの経験ですが、**大きな立派なアンテナを街中でいくら展開しても、標高の高い場所に簡易なアンテナを設置した運用にはかなわない**と考えています。言い換えれば地上高 1000m のアンテナを使った運用といったところでしょうか。

都会では自由に大きなアンテナを自宅に展開できるケースは稀です。ぜひ、必要な機材を持って高い山に登ってみてください。大きな感動が得られるはずです。

そして、登山を兼ねた移動運用のもう一つの楽しみは**山での食事**です。多少の荷物になりますが**ポケットストーブと固形燃料**の持参がオススメです。この日はガーリックチャーハンを参加者に振る舞いました。最高の景色を眺めての食事は最高です。



(上)富士山をバックに運用する JJ1RRA 加藤さん



(上)自宅から材料を保冷して持ち込み調理しガーリック炒飯が完成！JQ1UCA 津島さん

Column 3 我がクラブも近郊の山に登って移動運用

2020年1月25日に神奈川県足柄上郡山北町の大野山(標高722m)に登山を兼ねて移動運用しました。曇り空で目の前に見える富士山は拝めませんでした。



参加メンバー(当時)

JK1WQE, JA1CCH, JJ1SKZ, JI1BPM,

JJ1RRA, JJ1VKI, JQ1UCA

健脚の4名は御殿場線の谷峨駅から徒歩2時間かけて山頂まで登ってきました。山頂で使用する無線機器を背負って。残りのメンバーは車で山頂直下にある駐車場に車を止め山頂まで歩いてきました。

山頂では極寒の時期ですので、温めたおでんをつつきながら、移動運用開始！丹沢山系が邪魔をしているのか、都心方面とはほとんど交信できませんでしたが、JI1BPM 菊地さんはFT-818 6Wで7MHz 四国、JJ1SKZ 局は持参の430MHz ハンディ機で山梨県北杜市の局と交信できるなど、局数は少なめでしたが皆さん楽しんでいました。帰りは山北駅方面に下山し、登山道途中にあった地元山北町の喫茶店でコーヒーとケーキを食べながら全員で反省会、さらには山北駅前の「さくらの湯」でひとつ風呂して解散しました！



(左上)FT-818NDで7MHzを運用 JQ1UCA 津島さん

(左下)JJ1SKZ 局は持参のハンディ機に2m 高の430MHz モービルホイップアンテナを接続し運用



(中上)登山道にあった無人直売所でミカンを購入し、山頂で試食しました。とても甘かったです。

(右上)下山後のスイーツは疲れた体を癒してくれます。登山を兼ねた移動運用は予め周辺の飲食・スイーツスポットを探しておくとおもしろいです。

Style 4 自宅にある設備を車に積んで運用を楽しもう

本格的な移動運用を楽しむため、自宅の設備を車に積み込み、見晴らしの良い場所に移動して運用する楽しみ方があります。車での移動運用では無線機、電源、アンテナ、パソコンなど、運用に必要な多くの機材を持ち込むことができ、これまで紹介したスタイルよりも**高出力の無線機の使用や、大きなアンテナの展開も期待**できます。また、暑い時も寒い時も車の中に避難することができ、天候に関係なく運用ができます。

横浜シーサイドハムクラブでは、2022年12月11日をはじめとして、これまで何度も神奈川県横須賀市湘南国際村にメンバーが集まり移動運用を楽しんできました。

最近では、**安価でポータブルバッテリー**が手に入るようになりました。発電機や車のエンジンをかけたままカーバッテリーから電源を取らなくても**無線機を長時間使用**でき、手軽に運用しやすくなりました。

ポータブルバッテリーは**災害時の非常用電源という別の用途(本来の用途(笑))**にも利用できますので、購入にあたってご家族の承諾も得やすいでしょう(編者もこの手で承諾を得て、普段は寝室に備えています(笑))。過去の経験で FM モード 10w 出力であれば、5~6 時間は十分に持ちます。これだけ運用ができれば、日帰りの運用には十分です。



(写真)いずれも自宅装備を移動先に持ち込む

左上／ICOM IC-9700 とポータブルバッテリーで 144/430MHz を楽しむ JN1CD0 榎本さん

左下／運用する JL1KBS 和田さんと JK1WQE 酒井さん 右／運用する JP3MOS 局

使用バッテリーは **JVC ケンウッド製の BN-RB62-C、174,000mAh/626Wh 価格 6 万円前後**

Column4 聖地「堂平山」はいつも満足度 100%

2023 年 4 月 22 日、コロナで行くことができなかった埼玉県比企郡ときがわ町堂平山(標高 876m)に 4 年ぶりに行きました。現地は関東平野を一望できる場所で、全バンドの運用に適した場所です。山頂の旧東京天文台は宿泊施設でアスファルト敷きの広い駐車スペースがあります。この場所をフル活用して参加者 6 名がそれぞれ持参したアンテナを大きく展開しました。

運用は 1 階の食堂スペースを臨時の無線室として、メンバーそれぞれが持参した無線機を並べ、SSB、FM、CW、FT8 など思い思いに運用を楽しみました。全員が 4 年ぶりの思いをぶつけたかどうか知りませんが、アルコール変調もかけながら 7MHz~5600MHz で合わせてなんと 321 局と交信することができました。



(左上)5.6GHz 運用を楽しむ JI1DXJ 山田さん、(右上)同時に 5 名が運用する姿はやはり壮観、(左下)クラブ旗を持ち大満足の表情の参加者たち、(右下)持参したアンテナ群の一部、奥から 144~1200MHz 帯 GP、50MHz 帯 Δループアンテナ、7MHz 帯 V 型ダイポール

Style 5 キャンプをしながらの移動運用も楽しい

移動運用はアウトドアで無線を楽しむ方法ですが、やはりアウトドアで**合わせて楽しみたいのはキャンプやバーベキュー**ではないでしょうか。

2014 年 8 月 16 日には、静岡県伊豆市達磨山高原キャンプ場でキャンプを楽しみながら移動運用を行いました。このキャンプ場は駿河湾を挟んで富士山を目の前に拝むことができる FB なロケーションにあり、私たちも何度も訪れているキャンプ場です。

バンガローも隣接地にあり、大雨の時はキャンセルせず利用したこともあります、オートキャンプサイトでは電源供給を受けられるため、常置場所の固定機を持ち込み、**蚊帳のような大型テントをシャックに仕立てて運用**することができました。

アンテナは車のタイヤに踏み立てを踏ませ、頑丈な伸縮ポールを伸ばし、50MHz では 4 エレ HB9CV アンテナを展開しました。また、周りの木も利用してダイポールアンテナを展開し、HF も思い切り楽しめました。

移動好きのメンバーはやはりキャンプも大好きで、夜遅くまで運用も「お肉とお酒」も楽しみながら語り合うのでした。



(左上)車のタイヤに 50MHz 帯八木や HF 帯ダイポールを設置、(右上)蚊帳のような大型テント内をシャックに、(左下)電源供給が受けられたため固定機を持ち込んだ運用が可能、(右下)夜は楽しみバーベキュー、JL1KBS 和田さんと JQ1UCA 津島さん

Column 5 新緑の丹沢を満喫、大山移動運用 2023



スタイルブックの締めを飾る企画として、2023 年6月3～4日、宿泊で丹沢山登山と移動運用を企画していましたが、土曜日の大雨で宿泊を断念せざるを得なくなり、代わりに日曜日に、**日帰りで伊勢原市大山**で運用しました。



小田急秦野駅に集合、ヤビツ峠から登りました。高度差はあまりないコースですが、ゆっくりと登ったので一時間半で山頂に到着しました。富士山ビューポイントは雲に阻まれ、また、山頂も霧が立ち込め雄大な相模湾を拝むことは困難でしたが、移動運用は収穫あるものとなりました。

(写真)富士山ビュースポット／山頂到着(JQ1UCA 津島・JN1CD0 榎本・JJ1RRA 加藤さん)



持参した 50MHz の**ポケットダイポール**を釣り用の**タモ竿**に括り付け、タモ竿が倒れないよう**カメラ三脚に固定**、その三脚の脚は**ペグで固定**するという徹底ぶりです。

50MHz の運用は IC-705 + モバイルバッテリーで 10W 運用。**地上高 1250m からの運用はやはり格別でした**。小出力ながらも E スポ発生も手伝って、**CW で中国と繋がる**など成果がありました。また、430MHz もハンディ機とロングロッドアンテナを接続したことでパイルアップとなり捌くのが大変でした。

一方、HF はモービルホイップを持参しましたが、マッチングをとることができず、稼ぐことができませんでした。今後に向けて良いテスト運用になったこと、出発前にマッチングが取れるか確認することが必要と考えさせられました。

(写真) 50MHz のポケットダイポールアンテナ／50MHz の運用を楽しむ JN1CD0 榎本さん



2009 年に横浜は開港 150 周年、この時期に「何か記念のイベントができないか」とメンバーたちは考えていました。

当クラブ会員で上海在住の陳氏 (BD4CFT) から、「上海で記念運用をしたらどうですか?」「私が中国で運用できるように手配しますよ。」とお声を掛けていただきました。



(写真)上海のハムとの交流会のひとつ

「海外運用!!」「それも、中国で!!」「上海は横浜と姉妹都市の関係だし、いいアピールになる!」といっきに話がまとまりました。しかし、メンバーは皆、海外運用の経験がありません。それに、外国人アマチュアの運用をあまり聞かない「中国」です。隣国ですが、不安がありました・・・。

しかし、我クラブ自慢の BD4CFT 陳氏はそんな我々日本メンバーの不安を払拭してくれました。「中国での運用ライセンス」の手配をしていただきました。

日程等の都合で、会長の JL1KBS 和田と JP1STX 平井の 2 名が上海に向かうことになりました。日本からは 50MHz 4 エLEMENT HB9CV アンテナを持参することにしました。

出発日 2008 年 7 月 19 日 (1 日目)

上海虹橋空港に着き、入国手続きを済ませ、上海市内の高速道を走ります。高速を降りると、一般道はあちこちで工事。昭和の高度成長期の東京を彷彿とさせる様相です。上海のホテルにチェックインのみして、いざ運用予定地へ出発します。運用は「滴水湖海上運動俱樂部」の建物の「応接室」が、今回の移動運用のシャックになりました。

早速アンテナの設営からです。台風が次第に接近してきており、風がとても強くなりだしましたが、我が上海のハム仲間はその中をもものともせず、7~28 のダイポールアンテナ (通称「バンザイアンテナ」) をスイスイと上げてくれました。私たちが日本から持参した 50MHz の 4 エLEMENT HB9CV アンテナも設置して準備万端!!

現地時間 17 時ごろから、HF (短波) 14MHz での運用が始まりました。コールサインは JP1STX/BY4HAM 及び JL1KBS/BY4HAM です。最初 30 分ほど運用したところで、上海ハム

との交流食事会の始まりです。BD4CFT 陳氏の上海の友人たちは、自営業、警官、料理店オーナーなどなど様々な職業の多彩な面々です。とても気だてがよく、フレンドリーで、すぐ私たちも彼らの中に溶け込むことができました。言葉の壁も感じさせないほど和気藹々とした雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。

国も言葉も違えども、同じ趣味を持つ仲間としてこうした交流を持てることに「アマチュア無線」の素晴らしさを改めて感じたひとときでした。

シャックに戻って運用再開したのは現地時間 21 時前（日本時間 22 時前）。「さすがに 50MHz は静かだろう・・・。」とリグを 50MHz 帯に合わせると、なんと、JA（日本のアマチュア局）がガンガンに入ってきているではありませんか！！ 「CQ CQ CQ こちらは JL1KBS/BY4HAM・・・」この後、眠気も吹き飛ぶ「怒涛の 2 時間」が待っていました。

この日は強力な E スポが深夜まで発生し、現地時間 23 時（日本時間午前 0 時）まで 50MHz で JA との交信ができました。

2008 年 7 月 20 日 （2 日目）

翌朝も現地時間 5 時起床。期待の 50MHz は早朝から予想通り開けています。JA との交信再開です。途中、神奈川県三浦市で待機していた当クラブのメンバー JK1WQE 酒井氏、JQ1UCA 津島氏とも交信に成功しました。その後、21MHz 帯、14MHz 帯に変波して主に JA との交信を行いました。

そしてこの日は、今回のクラブ局 BY4HAM の運用をご快諾いただいた BA4AA 徐儒先生に「滴水湖」までお越しいただき、14MHz にて交信をしていただきました。徐儒先生は現在、後進の無線技術者の指導を行っており、お忙しい中ですが、来て頂きました。

そして、その徐儒先生を慕い、尊敬しつつも、親しげに意見交換している彼ら「上海ハム」の姿に私たちは感動を覚えました。



（写真）三浦市宮川公園から上海局を迎撃
／迎撃に使用した 50MHz 4Ele HB9CV

日本では、なかなか若い世代のハム自体がここまでエネルギーでないと、先輩ハムとの交流が少ないのではないかと感じました。

徐儒先生に日本から持ってきた「CQ出版社」の文献をプレゼントし、シャックにて記念撮影。その後、昨日行った「食堂」で昼食会です。ここでは、JP1STX 平井氏の持参した 30 年程前の「北京放送」のペナントやベリカードなどが披露され、徐儒先生を囲んで、楽しいひとときを過ごすことができました。徐儒先生も「いつも、こうして若い世代と話をして、元気をもらっているんだよ」と話されていました。

JL1KBS、JP1STX 両局で 2 日間で主に JA の局中心に約 360 局との交信ができました。パイルアップでなかなか「横浜開港 150 周年」のアピールはできませんでしたが、有意義な移動運用を行うことができたと思います。

2008 年 7 月 21 日 （3 日目）

今日は、BY4AA を訪問します。徐儒先生、BD4CFT 陳氏と程なく合流、まず、徐儒先生のハムショップにお邪魔しました。

その後、その 2 階にある BY4AA へ。BY4AA の台長 BA4EH 陳先生と 2 名のスタッフがいらっしゃいました。陳先生は、2010 年に開催される上海万博を機に、東南アジアのハムを中心としたアマチュア無線のネット「SEANET」が毎年行っている「SEANET CONVENTION」を 2010 年に上海で開催できるよう、今年のマレーシアでの会合で提案するとのことでした。また、是非 2010 年の万博の時期に上海に来て下さい、とのこと。その他、北京オリンピック記念局や、2009 年が横浜開港 150 周年であり記念イベントが予定されている話題などしばし無線談義に花が咲きました。

その後、私たちは、BD4CFT 陳氏の案内で、虹口区にある電気街を訪問しました。それは、ひとつの建物の中に様々な電気関係店舗がある雑居ビルで、秋葉原の「ラジオセンター」を彷彿とさせる場所でした。電子部品・ジャンク類・ハンディ機の店が所せましと並んでいます。興味のある方なら 1 日いても飽きないような場所です。もっと、見学していたかったのですが、そろそろフライトの時間も迫ってきました。（残念・・・）「ラジオセンター」を後に、私たちは上海虹橋空港へ向かい帰国の途に就きました。

上海移動運用は、CQ Ham Radio 2008 年 10 月号にも取り上げられ、クラブ内でも大いに話題となり盛り上がりしました。

2025 年は横浜シーサイドハムクラブの創立 40 周年の記念の年です。このような夢の移動運用企画をふたたび実現したいものです。

筆者／JL1KBS 和田芳尚 CQ 誌 2008 年 10 月号掲載内容を再編集したものです。

Epilogue 移動運用のススメ～屋外で無線を楽しもう～

移動運用の魅力は何かと問われたら、素晴らしい景色を楽しみながらの**爽快感**、山頂に登りつめたときの**達成感**、茶屋の料理や現地で調理して食べるご飯での**満腹感**、そして何よりも、**小規模な設備**でも数多くの局長さんと交信が楽しめる**満足感**ではないでしょうか。この楽しさを知らない皆さんにぜひ移動運用に触れてほしいと思っています。

これまで数限りなく様々なスタイルで移動運用を実施してきた私たちならではの楽しみ方やノウハウをまとめた「移動運用スタイルブック」を発行することとなりました。

ぜひ、この冊子を手にとった方から、一人でも多くの皆さんが移動運用にデビューされることを願っています。そして、ぜひ私たち**横浜シーサイドハムクラブ**のメンバーとなって**一緒に移動運用**を楽しみませんか？皆さんの参加をお待ちしています。



(上)2. 4GHz, 5. 6GHz の運用スタイルを会員に説明する

J11DXJ 山田さん 埼玉県比企郡ときがわ町堂平山



(右)相模原市緑区陣馬山頂でハンディ機単体だけで

移動運用を楽しんだ JL1KBS 和田さん

YSSC 流移動運用 StyleBook2023～無線機持って海に山に！今日から移動運用を始めよう！～

著作・制作／横浜シーサイドハムクラブ(JJ1ZB0) 発行／令和5年(2023年)8月19日

編集協力／和田 芳尚、津島 邦宏 撮影協力／酒井 一幸

本文・写真など内容の無断転用・転載・転売・複製を禁止します。

クラブ公式 web <http://yssc yokohama.blog.fc2.com/>

ご不明な点はどうぞお尋ねください。

すべてのアマチュア無線家のみなさまに…

